

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
( 公 印 省 略 )

### 病害虫発生予察技術情報について

令和 6 年度病害虫発生予察技術情報第 8 号を公表したので送付します。

### 令和 6 年度病害虫発生予察技術情報第 8 号

## さとうきび新植夏植えにおけるツマジロクサヨトウの防除対策について

さとうきび新植夏植えにおいて、ツマジロクサヨトウによる被害が発生しています。一部のほ場では、生育遅延が見込まれるほど深刻な被害が確認されています。生育初期に幼虫に食害されると被害が大きくなるため、今の時期の防除が重要です。ほ場を定期的に見回り、早期発見に努め、対策を徹底しましょう。

### 1 発生生態および被害

- (1) 卵は葉の主に裏側に通常 150~200 個、多いときは 300 個が卵塊で産み付けられる。
- (2) 幼虫が新葉の葉しょう部を食害する。葉に不定形の穴があき、著しい場合は茎の先端部が切断される(図 1)。孵化後間もない幼虫は同じ植物上に存在するが、成長した幼虫は通常移動分散して近くに存在するほかの植物を加害する。
- (3) 老齢幼虫の体長は最大で約 40mm (図 2)。体長が 20mm 以上の幼虫には、主な特徴として、頭部に複眼と前額の境界に淡色の「逆 Y 字」状の模様と淡褐色の網目模様がみられ (図 3)、尾部には大きな黒色斑点が見られる (図 4)。
- (4) 成虫は、長距離飛翔が可能で、産卵前に何 km も飛翔することがある。

### 2 防除方法

- (1) 発生ほ場では、登録農薬による防除を実施する。登録農薬については、最新の農薬登録状況を確認し、農薬使用基準を順守する。
- (2) 粒剤は防除効果が現れるまで時間を要することが多いため、発生時には散布剤等による防除を行う。散布にあたっては、新葉の葉しょう基部に潜り込んでいる幼虫に届くよう、株の上部までしっかりと散布する。なお、周辺作物での農薬の飛散(ドリフト)には十分注意する。
- (3) 老齢幼虫になると農薬の効果が低下するため、可能な限り、若齢幼虫のうちに防除することが望ましい。

### 3 防除上注意すべき事項

- (1) 生育初期に幼虫に食害されると被害が大きくなるため、ほ場を定期的に見回り、早期発見に努める。
- (2) 本種の発生は、葉の食害痕や葉しょうに付着している虫ふんの塊によって確認できる。幼虫はしばしば新葉の葉しょう基部に潜り込んでいるため、見つけることが難しい。葉しょう内部をのぞき込むことで比較的容易に見つけることができる(図 5)。

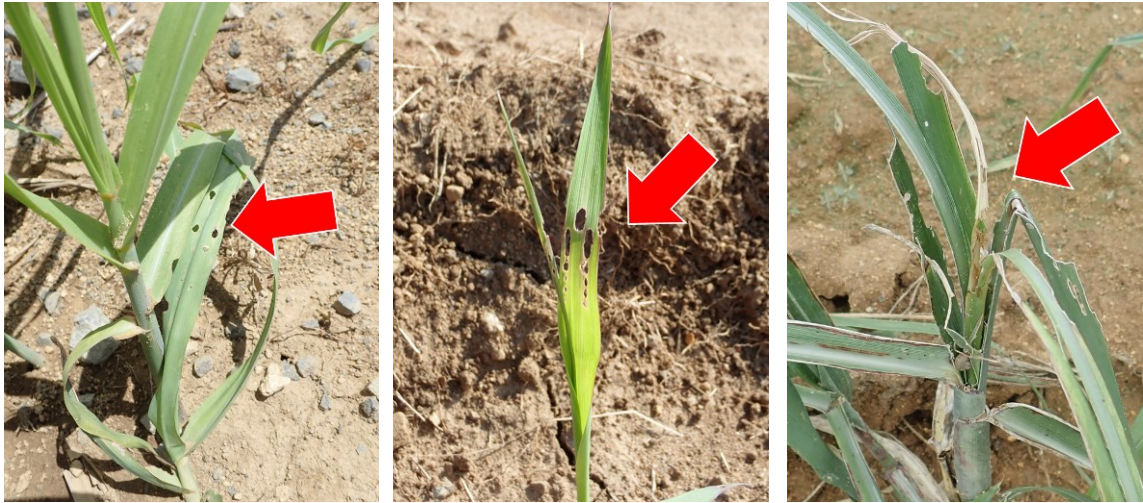


図1 ツマジロクサヨトウによるさとうきびの被害

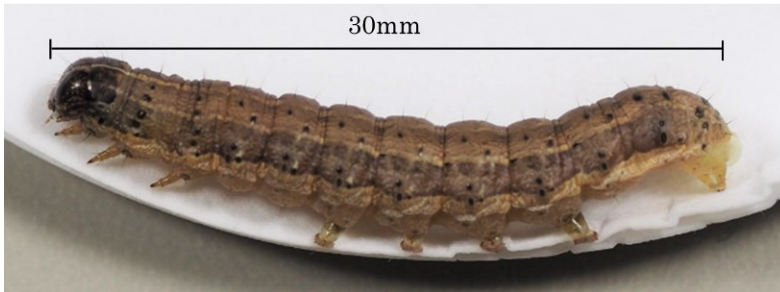


図2 ツマジロクサヨトウ幼虫 (全体)

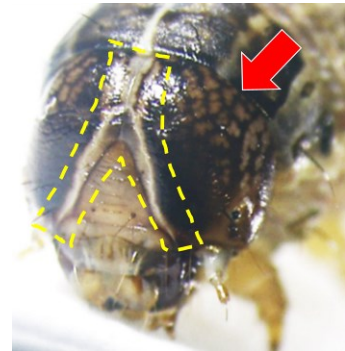


図3 ツマジロクサヨトウ幼虫 (頭部)  
破線内：淡色の「逆Y字」模様  
矢印：淡褐色の網目模様

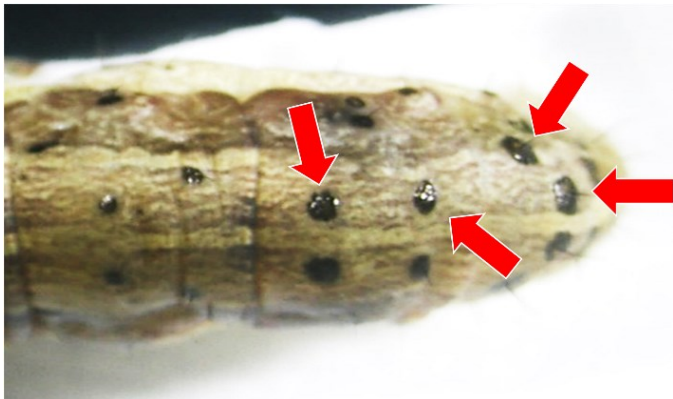


図4 ツマジロクサヨトウ幼虫 (尾部)  
矢印：大きな黒色斑点



図5 葉しよ基部に潜む  
ツマジロクサヨトウ幼虫

